



心を掴むために
秘蔵された

御注意

「かれとかれのせいかつじじょう」の3冊目ですが、この本のみでも読むことは可能です。

あまり表現できていないと思ったので補完しますが、デニスの過去話から、フレンドシップカップのデニ生戦前に唐突に飛ぶので、うまく理解して頂けると幸いです。

幼い頃から素養は
あったように思う

ボクは人の
望むことが
手に取るように
わかった

誰に教えられた
わけでもない

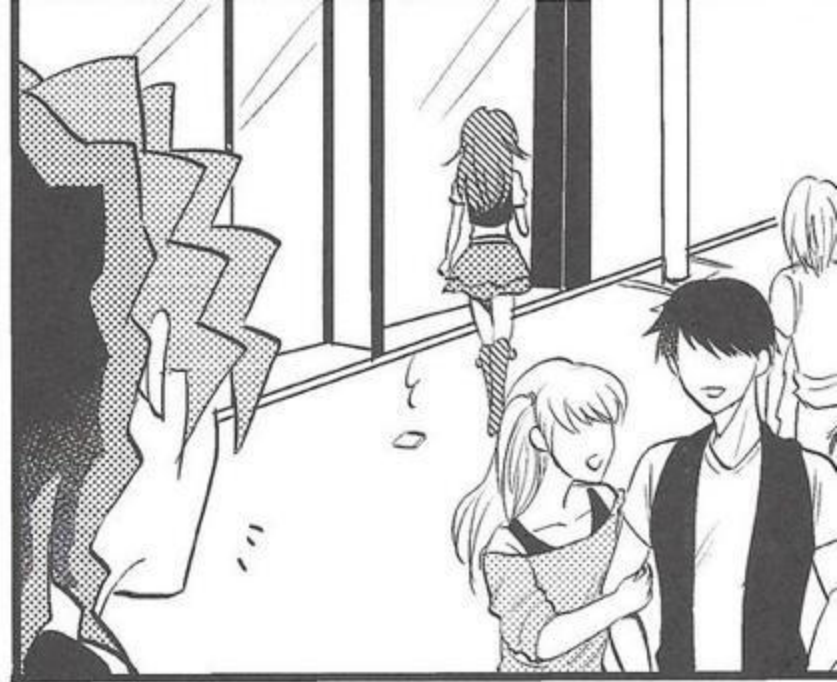
ひとの喜ぶ
言葉、態度、仕草

どうすればひとに
受け入れられるのか

生まれながらにして
理解してやうなものを
思う

だからボクは
スパイになったじ

自分でもこれが
天職だと思っている



間諜活動において
最も肝要なことは
誰の一番にも
ならないことだ



最良でも最悪でも
駄目だ
ひとの思い出に
なってしまうから



それはきつと
誰とも繋がらない
ということ



ボクは覚えて
いるけれど

ボクの世界は
永遠に誰とも
交わらない
けれども

ボクは誰の
思い出にも
いない

ボクから
うんと離れた
ところで
世界は廻り
続けている

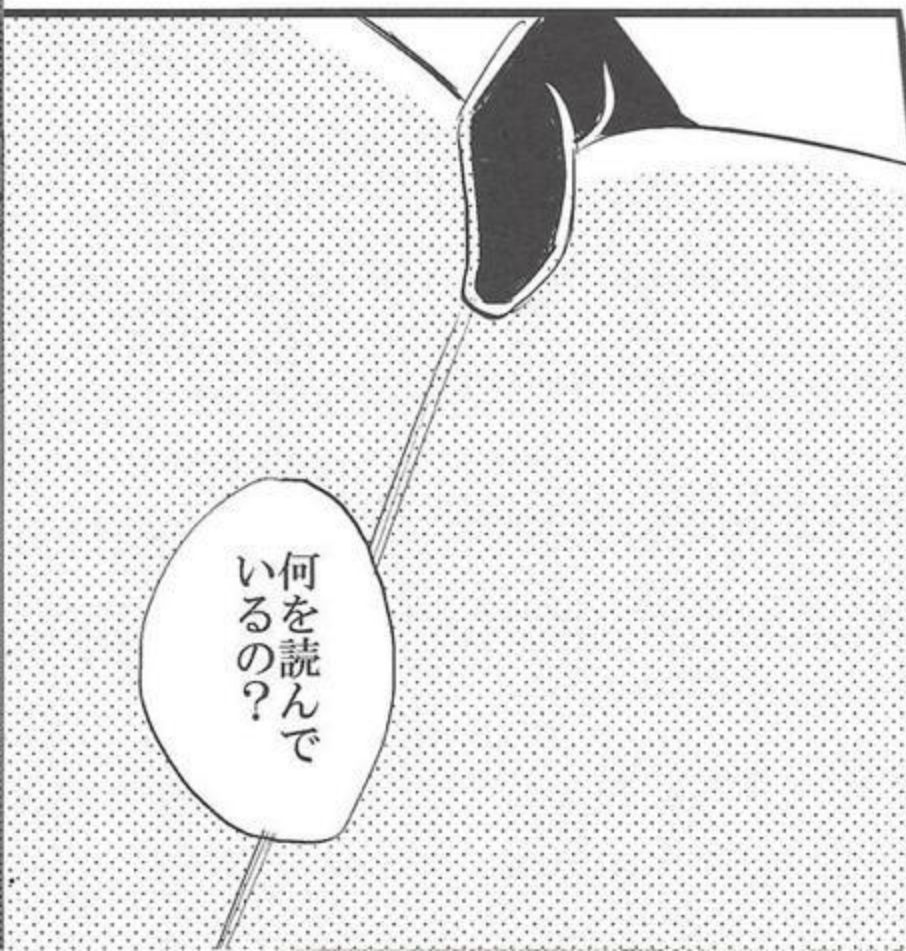
ボクの世界は
断絶している

誰とも
繋がらない
世界



同じ景色を
誰かが見る
ことはない

心の臓を挟らせてくれ



哲学書だよ

プラトンの「饗宴」知ってる？

名前は知ってるけど……著作はよく知らないわ

プロセッ

Shinji

哲学書なんて難しそうなお本読むなんて意外ね

まーまあそういうお年頃ってカンジかな

ねえどんなお話なのかしら

知りたい？

ええ

……

——我々が愛の目標に到達し、

そうしてあらゆる人が昔ながらの本性に還元しつつ

自分のものとなる愛人獲得するとき、

ただその時にのみ人類は幸福になることができる——





ねえ私のこと
好き？

ウン、
素直で
かわいいよ

アゲアゲさ〜

いっぱい

じゃあ
キスして

うん

…んっ

彼女は本当に
信じている
のだろうか

いまボクと
確かに同じ
気持ちなのだ

同じ感情、
同じ景色を
共有している
のだと



滑稽なことだ

好き

どれだけ身体を
埋めたいか
誰ともひっつき
なれなんてばない

好きよ…

うん…

とどのつまり
ひとはどうしたって
ひとりなのだ

肉体だって
言葉と同じくらい
無意味じゃないか…



……
女臭いな
キミ

はれた？

ああ、
ちよっとね



待っていたよ
ユーリ





キミに
言われたく
ないなあ

それにボクは
キミより
悪趣味じゃ
ない

ほけ

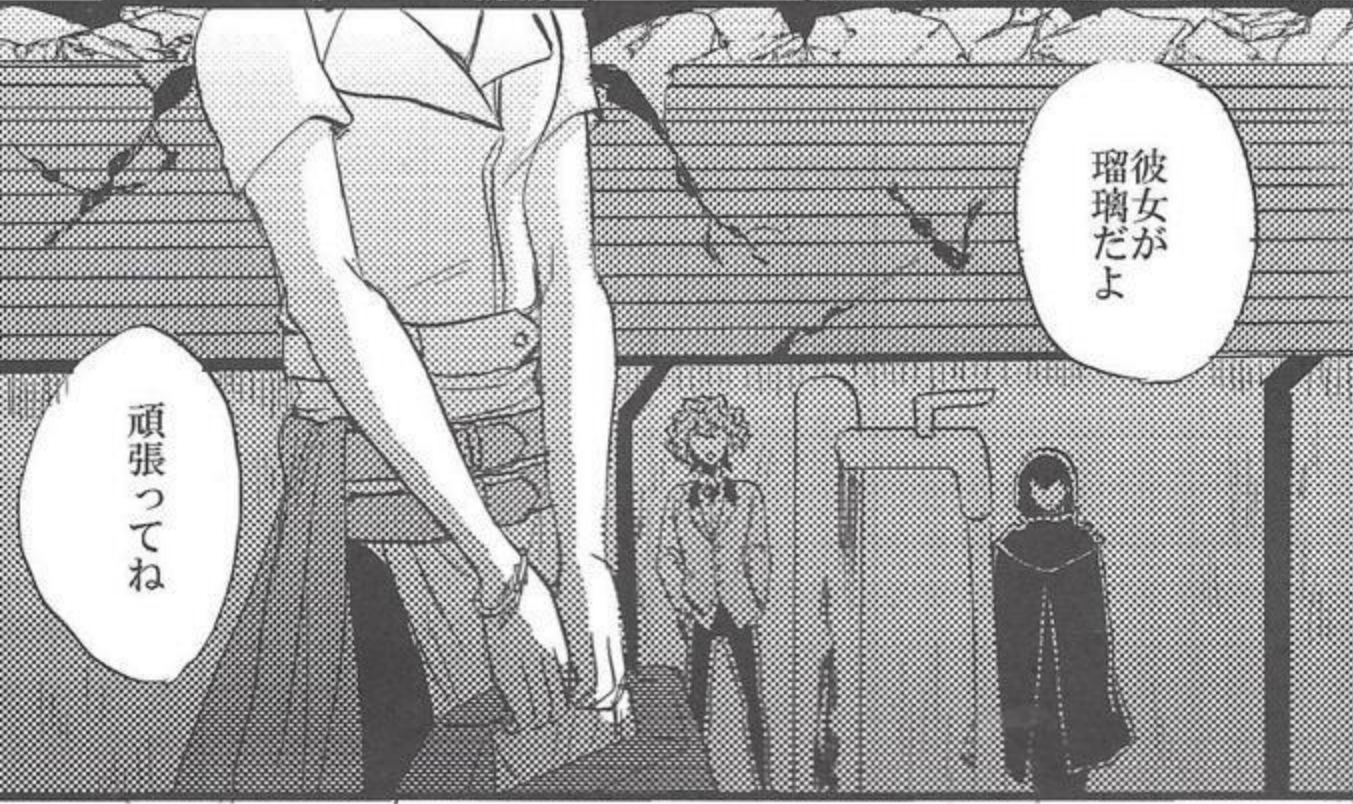
フ…



クス…

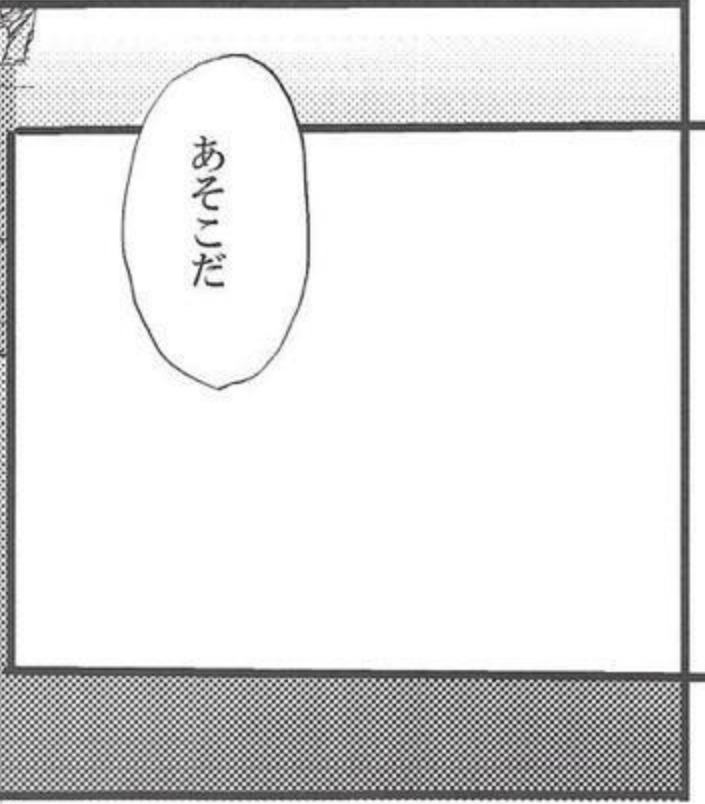
…キミの
悪い癖だ

寂しいと
すぐそれだ



彼女が
瑠璃だよ

頑張っ
てね



あそこだ



フッ

ボクが
見つけて

彼が
手を下す



もちろん

いつもボクは
傍観者で

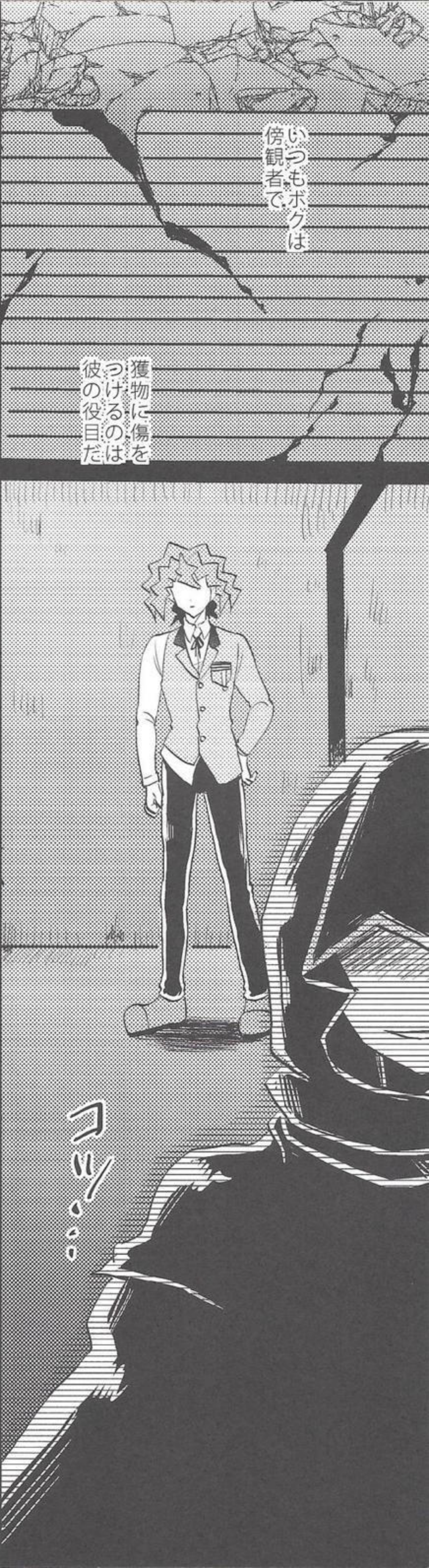
獲物に傷を
つけるのは
彼の役目だ

それが妥当だ

ひとを
傷つけるのだって
得意じゃない

だってボクは
傷つける牙を
持っていない

コ
リ
ッ
ッ
ッ



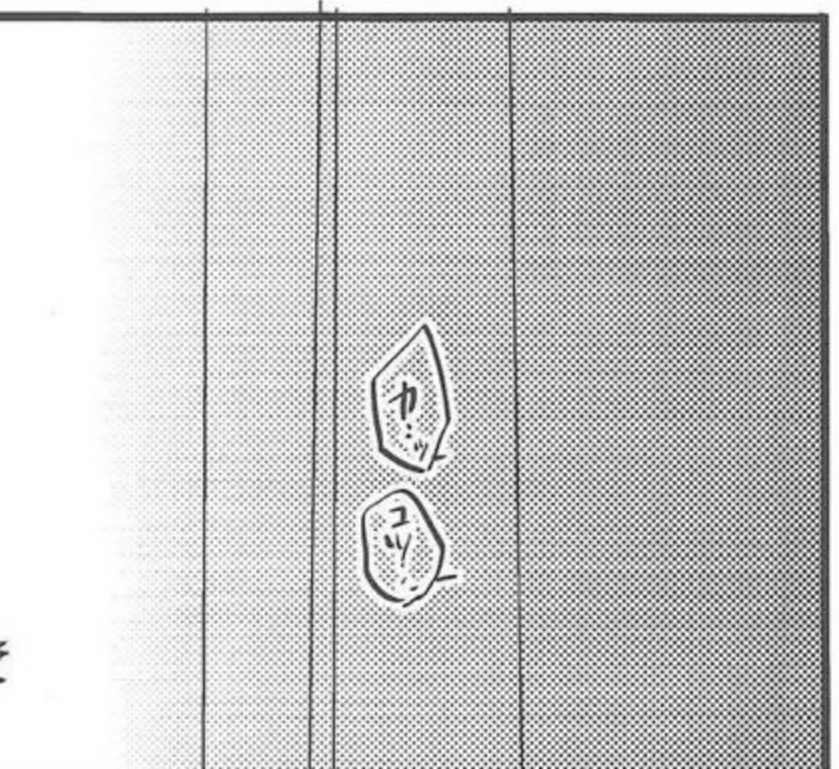
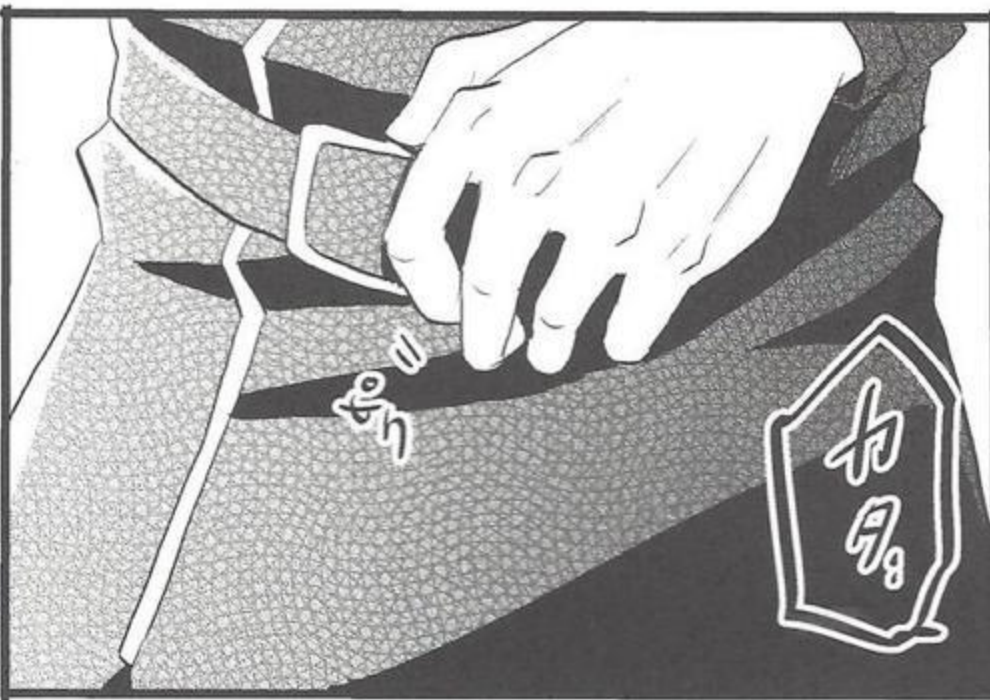
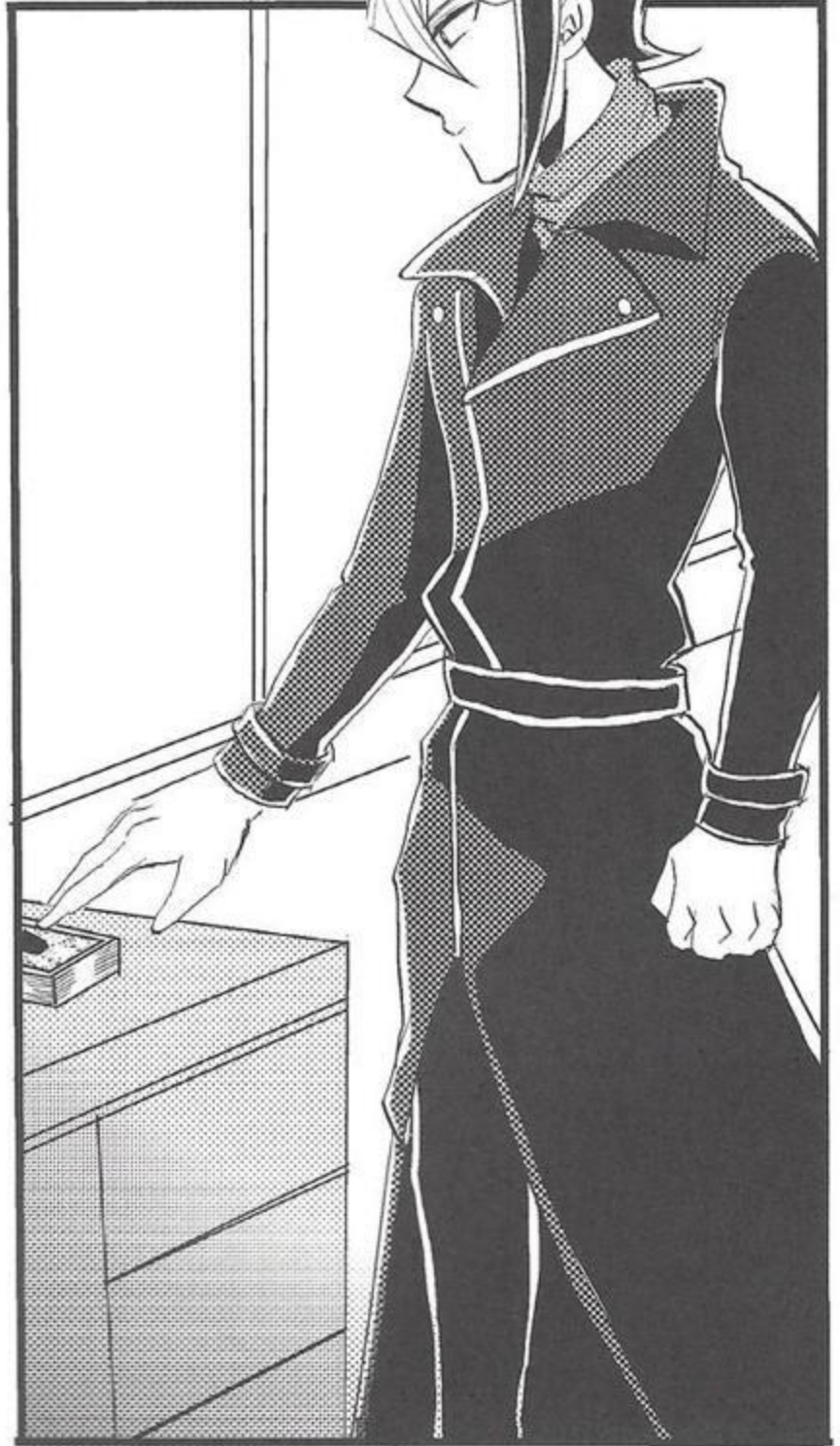
ボクの物語は
結末から始まる

正直なところ、
いまとなつては
迂闊だったとしか
言いようがない

初めに手を出した
のはボクで
そこに追い込もうと
思ったのもボクだ

気まぐれにも
ほどがある
のだけれど
兎角そうしたい
気分だったのだ

だから
この物語の責任は
ボクがとらなくちゃ
ならない





うってわっ

チッ

なんだか
手荒い出迎え
だね



起きる...?



クワッ



..... 貴様一体
どうやって鍵を...

え?
部屋の鍵?
開いてたけど

開いて
いなかった...

そうだったけ?
適当に動かしたら
開いたよ?

馬鹿な
電子錠
だぞ...



ぽ
ん



待て
勝手に...ッ
おい...ッ

細かいこと
気にすると
禿げるよ??



泣いてるの
かなあって
思ってる

はっ



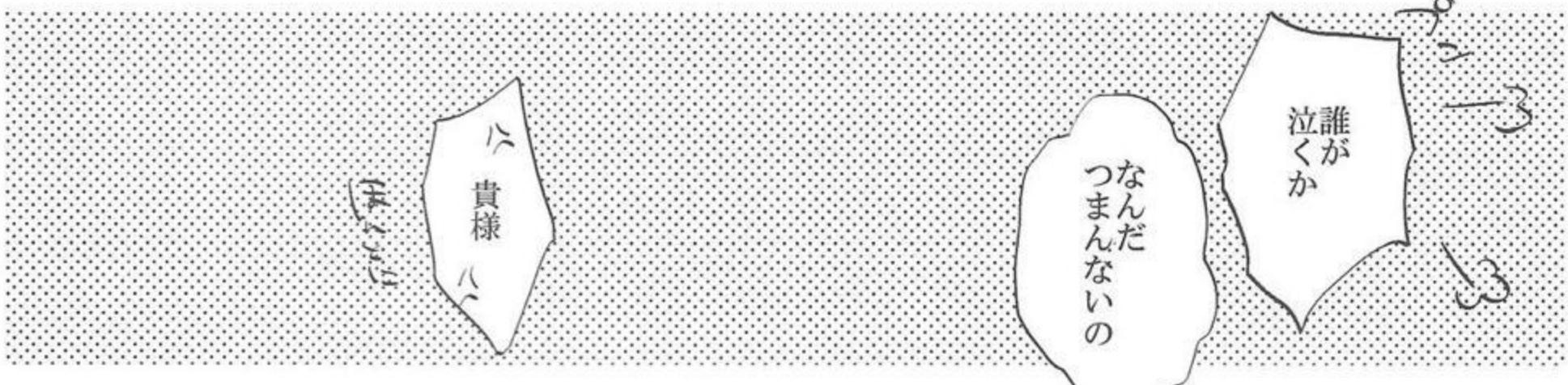
なに？今日は
積極的な？
いいね、好きだよ

死ね



何しに来た

…答えろ



貴様

なんだ
つまんないの

誰が
泣くか



限界？
何を馬鹿な

それを言うなら
貴様の方だろう

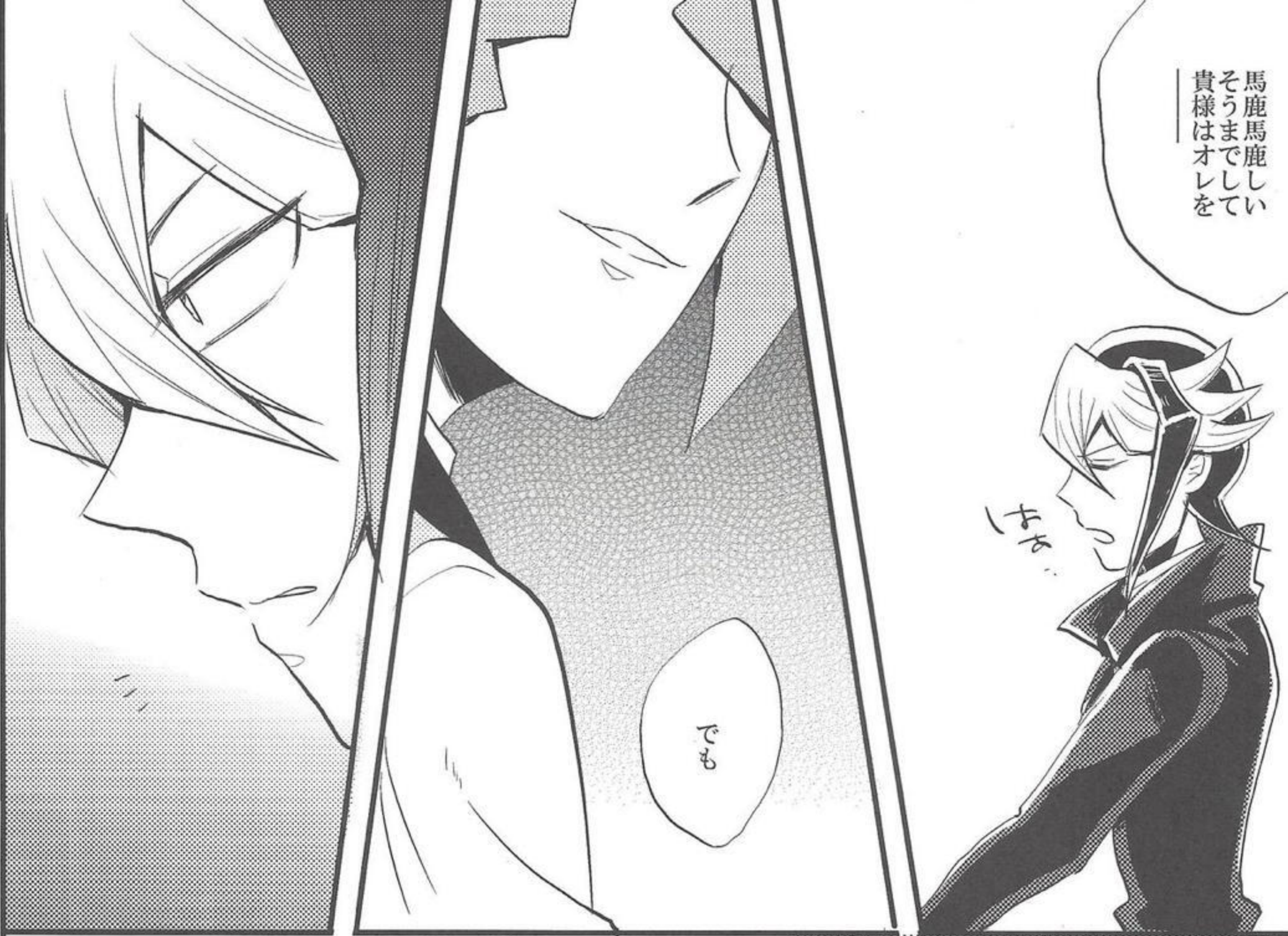
わざわざ
抜け出して
ここまで来た
奴の言う台詞か

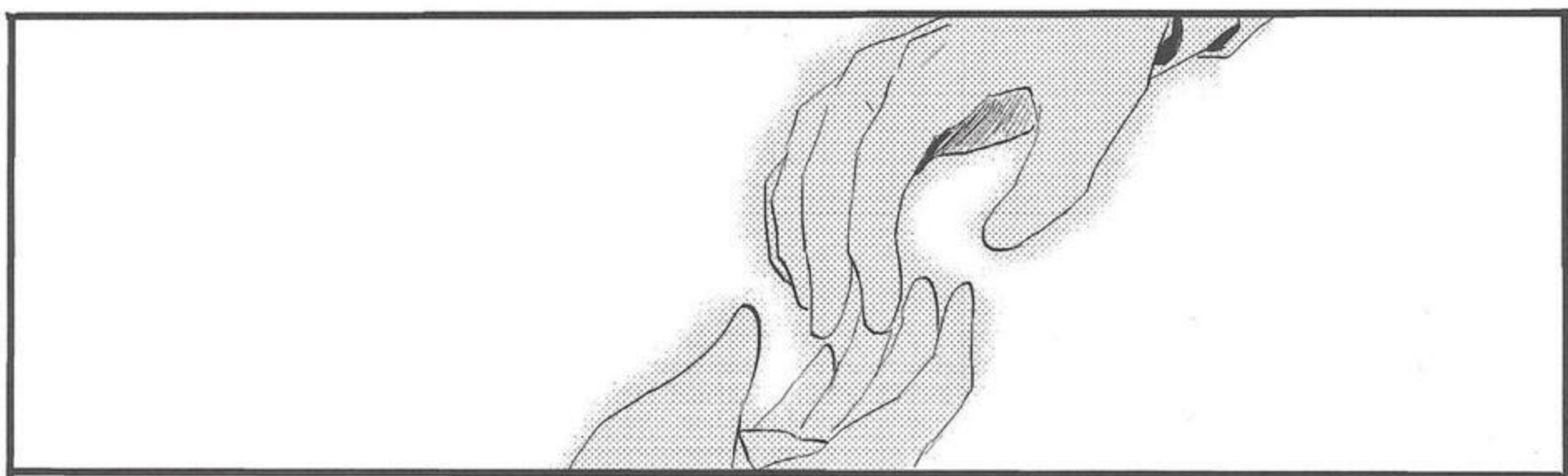


ああ
いやあ

そろそろ限界
じゃないかと
思ってる

馬鹿馬鹿しい
そうまでして
貴様はオレを







ん...

ん...

ボクと黒咲は
セックスをする

恋とか愛とか
そんなんじゃない
なくて

単純な興味と
性欲の発散

…ッあ

は



いわゆる
身体だけの関係
というやつだ

生産性はなく
消費するだけの
セックス



……黒咲は

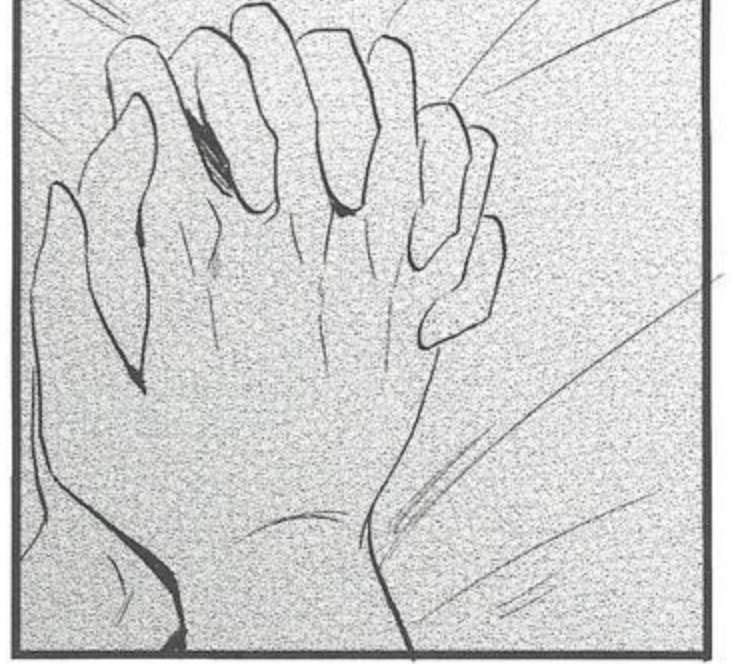
当初
なんだかんだと
懊悩して
いたけれど



ある日
ぱったりと
抗うことを
やめた

寄る辺のない彼は
縋る対象を見つけて
それを受け入れた
のだろう

もつとも彼が
そうするよう
誘導したのは
ボクだけれども



黒咲は

エクシース次元の
唯一の生き残り
になった



彼はこの世界に
ひとりぼっちだ





……ッ、はあッ

……ッ、はあッ

いい、
加減に……ッ

ガッ



ごめん

……ッ



なんだろう
……?

変だな

今日はキミに
たくさん
キスをしたい
気分なんだい

……ッ

……ッ

……ッ

愚直な彼が
ずっと嫌いだった

感情的に振舞って
激情しては
敵を作って

誰ひとり
信じないと言う

そうしているくせに
傷ついた顔をして
ひとりで傷を
舐めている

もっと上手く
やればいいのに

傷ついたらと
言えば誰かが
慰めただろう

辛いと言えば
誰かが
抱きしめただろう

そうすれば
傷つかないのに

しおらしく
していれば
ボクだって
優しくできた
かもしれない

だってそのほうが
ずっとずっと楽だ

—キミは

愚かしいほどに
不器用で
不愉快だった

早く諦めれば
いいのに
もがいて
苦しんで……

だからボクは
キミが嫌いなんだ

昔から
ハッピーエンドが
嫌いだった

好きなひとが
できて
恋をして
両想いになって
終わり？

そんなことは
ありえない

だって人生は
そのあとも
続いていくのだ



いつか
恋は終わり
相手を疎ましく
思う日がくる

一度は愛しいと
思ったはずの
相手に憎しみを
抱いて殺して
しまう日が
来るかもしれない

幸せな瞬間だけを
切り取ってなんに
なるのだろう

そのあとの
不幸せを隠して
どうするのだろう

みんな幸せを
求めているけれど
すべてが終わりを
迎えたあと、
それが滑稽な
ものになると

どうして誰も
気づかない
のだろう



ボクはずっと
それが不思議
だったんだ



黒咲と
いるのは楽だ

だって
終わりが
見えているから

ハッピーエンド
なんて
万が一にも
起こらない

ボクはキミの
前から消えるだろう

キミもボクを
忘れるだろう

それがボクの
役目であり
使命だ

でも


ふと思う
ことがある

憎しみも悲しみも
苦しさも弱さも



すべて取り去った
キミの目に

ボクはまだ
映っている
のだろうか



そうだとしたら
ボクはキミの
一番になっても
いいような気がする

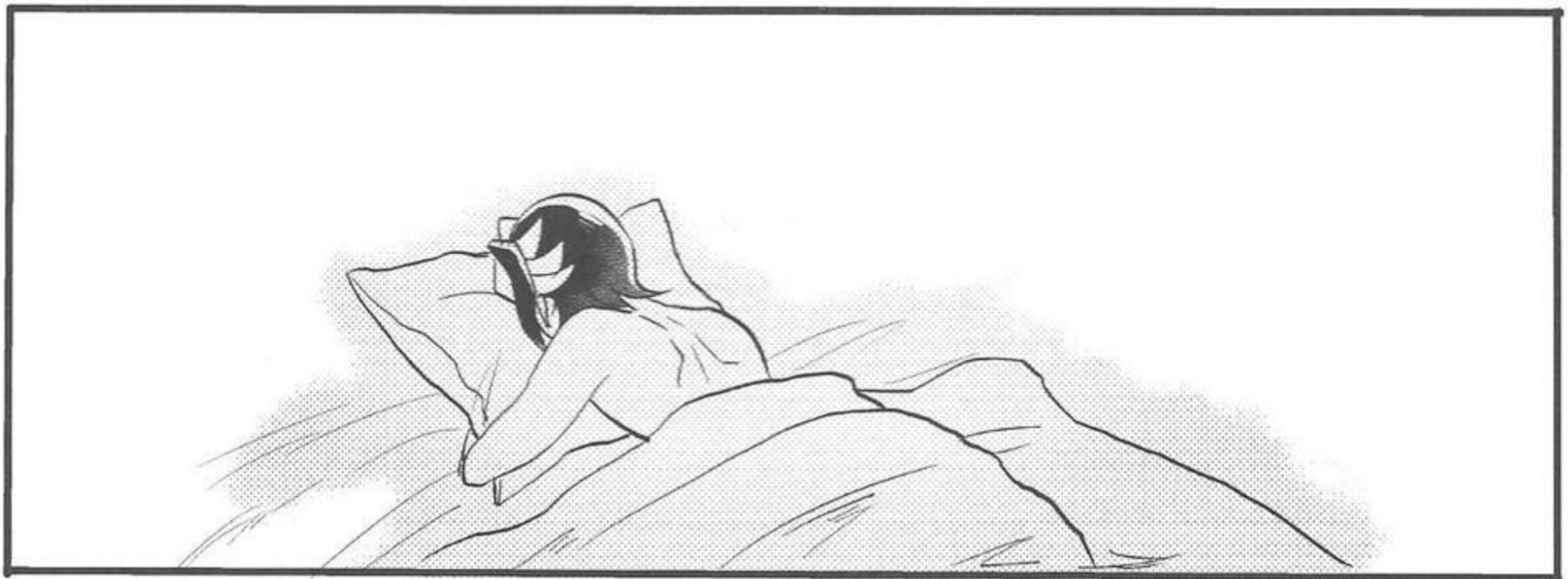
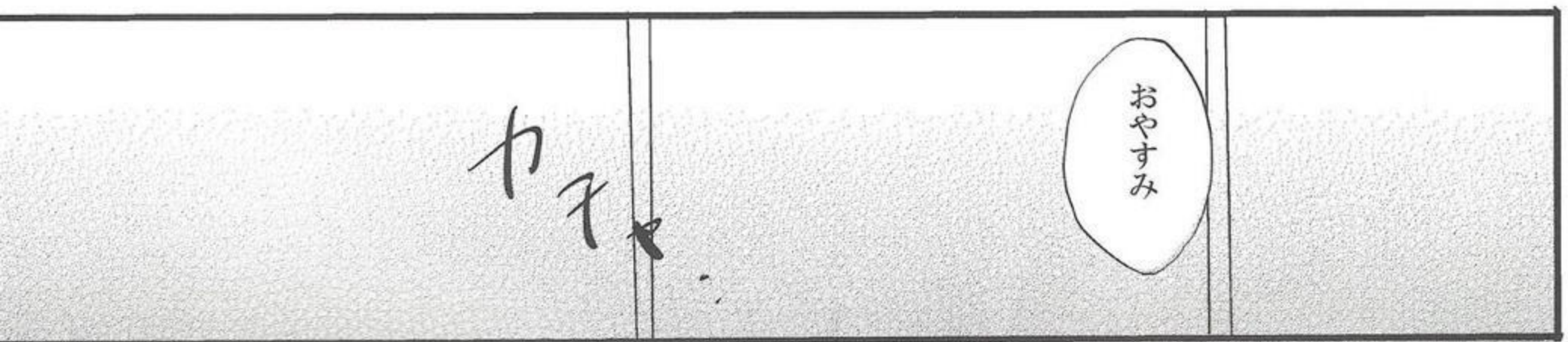
心の臓を抉って
彼に消えない傷を
つけたい

誰よりも深く
ボクを
刻みつけたい

ああ
叶うのならば

ボクは
キミにとつての
『最悪』になりたい





KUROSAKI

VS

DENNIS



この瞬間を
ボクはずっと
待っていたように
思う

すみ
目せろ！
妻の
正体を！

緞帳が降り

役者は
舞台を去る

キミが
見たか
ったの
は
これか
い？

さあ
ファイ
ナーだ

……ッ

そんな顔するから
つけこまれるんだ

ホクなんかに

やはり貴様は
アカデミア!

お前は……ッ

キミは本当に
馬鹿だ

ダブルバイト
ハウンド
ドッグ!

心の臓を抉って
彼に傷をつけたい

なんたるっ
気分が高揚する

誰よりも深く醜く
ボクを刻みつけたい

…ッ

幸せな
瞬間を
なにかもしねる

トリプルバイト
ハウンドドッグ!

アルティメッド
ハウンドドッグ

ボクはキミの
最悪になれた
だろうか

ボクの物語は
結末から始まる



世界は交わらず
ボクは今もひとりだ

「かれとかれのせいかつじじょう」の3冊目です。
本編補完もこれにて完結です。お付き合い頂きありがとうございました。
このシリーズ、結構な枚数を描いたなって思います…。
とにかく、今後はタイトルを適当に決めるのはやめようって思いました。

この本のプロットは半年くらい温めていたものだったので、
いま描き終えられてほっとしている状況です。

デニ隼戦の2戦目、デニスは、手札を伏せることで、
融合のカードを黒咲に見せずに済ますことも可能だったと思うのですが、
あえてみせることを選択したのは、どういう意図があったんだろうと
いろいろ考えた結果がこのお話です。

デニスにとって、スパイの任務を続けること以上に、
黒咲を傷つけたいと思ったからこそ、あの行動になったのではないのだろうか
それはもう立派なホモなんじゃないかと腐女子は考えました。

シリーズ通して見ると、この本ではお互い態度が軟化してるんですけど、
普段あんまり、らぶらぶせっくすを描かないので、ひどく苦しみました。
よっぽど「ここ笑うところ」って書こうかと思いましたが…。

融合次元に行ったらデニス再登場しないかな。

YGO ARC-V
UNOFFICIAL FUNBOOK NO. 3
BY REM

